

琴平自動車株式会社

《経営理念》

カーメンテナンスサポート業を通して安心と信頼の輪を広げる



私たちは返品を笑顔でお受けします。

NO. 220 令和 3 年 11 月号

<http://kotohira-motors.com>



車検を通さない対象車両を拡大 タカタ製エアバッグのリコール未実施

**そのままお乗りいただくと大変危険です。
一刻も早い改修をお願いします。**

—交通事故でエアバッグが異常破裂した事例—



写真:エアバッグが異常破裂し内部の金属部品が飛び散りバッグの中央部が大きく裂けている状態



国土交通省は、タカタ製のエアバッグを搭載している車両で車検を通さないリコール未実施の車両の対象を拡大すると発表した。異常破裂して金属片が飛散する可能性のあるタカタ製エアバッグを搭載している車両は国内で2009年以降、2112万台のリコールを実施している。リコール対象車のうち、特に異常破裂する危険性の高い車両でリコール未実施のものを対象に2018年5月から車検を通さない措置を実施している。時間の経過とともに、国内で異常破裂したエアバッグと同じタイプのものを搭載した車両が2020年度以降、生産から9年以上が経過する。これらの車両について2件のリコール届け出があったことから、順次、車検で通さない措置の対象とする。パブリックコメントを実施した上で道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の特例を一部改正し、11月に施行する。



【新型コロナ】インフルエンザ 「今季は大流行のおそれ」 感染症学会



日本感染症学会が、冬に備え、インフルエンザワクチンを積極的に接種するよう呼び掛けている。昨季はコロナ禍でマスク着用や手洗いなどの対策が徹底され、インフルエンザ患者が激減したが、そのため社会全体の集団免疫が形成されておらず、今季はインフルエンザの大規模な流行が起こる可能性もあるという。ワクチン接種で患者を減らせれば、医療現場の負担軽減にもつながる。秋以降の新型コロナ患者の急増への備えとしても重要だ。糖尿病のある人は、インフルエンザに罹患した場合の合併症のリスクが高いとされており、とくにワクチン接種が推奨されている。

今年のインフルエンザは早期に流行が始まるおそれも

昨年の冬季にはインフルエンザと新型コロナとの同時流行が危惧されてきましたが、同時流行はみられなかった。これは、新型コロナ対策として普及した手指衛生やマスク着用、3蜜の回避、国際的な人の移動の制限などの感染対策がインフルエンザの感染予防についても効果的であったからだと考えられる。また、インフルエンザウイルスと新型コロナウイルスとのあいだにウイルス干渉が起こった可能性もある。では、2021～2022年のシーズンについてはどうだろうか？日本感染症学会は、今年のインフルエンザは早期に流行が始まり、昨年のシーズンに、インフルエンザに罹患した人は少数だったため、社会全体の集団免疫が形成されていないとして、「インフルエンザワクチンの積極的な接種を推奨します」と呼びかけている。WHOの報告によると、アジアの亜熱帯地域、たとえばバングラデシュでは、2020年後半にA(H3N2)、2021年初夏よりB(ビクトリア)の流行があり、インドにも、2021年夏季にA(H3N2)の流行があった。これらの国々では、インフルエンザワクチン接種が普及しておらず、社会全体のインフルエンザに対する免疫が低かったとみられるという。小流行を繰り返すことで、「これらの地域でウイルスが保存され、今後国境を越えた人の移動が再開されれば、世界中へウイルスが拡散される懸念があります」と指摘している。さらに、新型コロナについても、秋以降も多くの新規患者が発生することが予想される。「ワクチンで予防できる疾患については可及的に接種を行い、医療機関への受診を抑制して、医療現場の負担を軽減することも重要です」と、同学会は指摘している。



琴平自動車株式会社

